様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ５ 月 ２６ 日現在

機関番号：１７５０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５３１１４６

研究課題名（和文）スペインの美術教育に学ぶ、言語教育を取り入れた図画工作科の学習内容と指導法の検討

研究課題名（英文）A Study of Teaching Method and Learning Content of Arts and Crafts Introduced English Education in Spain

研究代表者
藤井　康子（FUJII, Yasuko）

大分大学・教育福祉科学部・講師

研究者番号：１０６０８３７６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、スペインの英語教育を取り入れた美術教育の在り方に学びながら、小学校図画工作科と外国語活動（英語）との協働学習の可能性を探求し、我が国の児童の多様な表現力・言語力を育む学習内容と指導法を検討するものである。スペインのマドリッド自治州、ガリシア自治州、カタルーニャ自治州の小学校や大学、教育省等の教育機関、教科書会社の訪問調査を行い、初等教育段階における英語を導入した美術教育の現状と課題について明らかにした。また、英語版初等美術教科書と教師用指導書の内容を分析し、我が国の図画工作科と外国語活動で実践可能な教材を開発し、実践研究授業を通してその効果と意義を検証した。

研究成果の概要（英文）：This study made a research in Spain’s art education used English and tried to find some possibility in cooperative learning for arts and crafts and foreign language activity in primary school. I tried to find learning content and teaching method for varied expression and language ability among children in Japan. I visited primary schools, Universities, education boards and publishing company in the self-governing state of Madrid, Galicia, and Catalonia from 2012 to 2013. I clarified present situation and problems of English used art education in primary level. I analyzed contents of English version arts and crafts text books and teacher’s guide book, I developed teaching materials for foreign language activity in arts and crafts education, in order to verify meaning and effect through practical teaching.

研究分野：美術科教育

キーワード：図画工作科　スペインの美術教育　図画工作科教科書　外国語活動　CLIL　多言語教育

１．研究開始当初の背景

現行学習指導要領では教育目標の達成の手段として「言語活動の充実」が掲げられ、小学校外国語活動では「他教科等の学習成果を活用して指導の効果を高める」ことを目的に図画工作科を通したコミュニケーション活動が導入されている。多文化共生社会では、異なる文化や価値観を理解し、自分の思いや考えを豊かに表現できる言語力の育成が極めて重要であり、今後は図画工作科においても、感性とともに、日本語だけでなく英語も取り入れた多様な自己表現力の育成が求められる。

日本では現在、外国語活動との連携を考慮し、多言語教育を取り入れた図画工作科の学習指導法に関する研究は皆無である。多民族国家のスペインでは多言語教育に関する多くの実践と研究がなされており、中でも英語で行う美術教育の在り方を検証することは我が国の教育に基盤的情報を提供しうる。

本研究は、図画工作科における基礎的な言語学習を含めた学習指導法の提案として、社会的に大きな意味をもつものといえる。

２．研究の目的

(1)スペインの英語版初等美術教科書やメディア教材の挿絵や図版等の図像イメージとテクストとの関係に着目し、ヴィジュアル表現の活用が語学の習得に有効な手段であることを検証する。図像は言葉で説明しにくい抽象的な事柄をイメージで伝達する特性があるため、その視覚的・感覚的に意味を伝える機能について考察し、適切な図像の選択と言語との効果的な構成を研究する。

また、教科書内容を規定する芸術教育学習指導要領（美術）の内容を分析し、日本と比較した特色を導き出すとともに、最近の教育政策や教育課程の動向を踏まえ、多言語教育と美術教育の連携方法を研究する。

(2)現地の小学校や教育機関、教科書会社の訪問調査を行い、スペインの美術教育にみられる、多言語教育を取り入れた美術教育実践の現状を明らかにする。具体的には、言語教育に関する工夫、教科書や副教材の運用方法、ICT の教育利用等について調査・分析する。又、現地の大学マドリッド・コンプルテンセ大学等との共同研究を行い、海外の最新の動向を調査する。

(3)教科書研究や現地調査等の結果をふまえ、図画工作科を通して日本語・英語の言語力・表現力の育成を図る学習内容と指導法について検討を行う。小学校低・中学年の実践に活用できる、子どもと教師双方が楽しみながら学べる図画工作科と外国語活動との協働学習の教材開発を行う。教育内容や学習指導法は、データベースの構築や報告書を通して広く明らかにする。

３．研究の方法

海外調査については、現地の学校教員、大学教員の協力を得ながら、小学校における英語を取り入れた美術の授業や英語版美術教科書の運用方法、副教材の活用状況、多言語教育との連携、ICT の教育利用を含めた教室環境等の状況についての実態調査を自治州別に実施した。

主な研究方法は、下記のとおりである。

(1)教科書会社、教育省又は教育委員会の調査：現在スペインでは教科書認可制と有償制の形態がとられているため、各県で複数の民間出版社が教科書を作成し出版している。中でも販売部数・使用頻度ともに高い教科書を編集・出版しているアナヤ社（ANAYA）とサンティジャーナ社（santillana）を訪問し、編集者及び作者への聞き取り調査を行った。

また、マドリッド自治州の教育省、ガリシア自治州の教育省、カタルーニャ自治州の教育委員会を訪問し、自治州の制度面や教育行政面における特色についての聞き取り調査と資料分析を行った。

(2)小学校の調査：スペイン国内の 17 の自治州において、スペイン語と英語のバイリンガル教育を実施する小学校を設立したマドリッド州、自治州言語を持つ州の中でも初等教育段階の在学率が高いガリシア州、ICT 化が進むカタルーニャ州を選出し、3 都市の小学校を学校種（公立、私立、半官半民）別に現地調査を行った。

また、小学校における英語を取り入れた美術の授業や英語版美術教科書の運用方法、副教材の活用状況、多言語教育との連携、ICT の教育利用を含めた教室環境等の状況についての実態を調査した。

(3)教科書、教師用指導書、美術教育関連資料の収集：教科書及び教師用指導書は、教科書リストや各州の教育法規等を参考に、スペイン教育科学省の認可を受け教科書会社で出版されているものを対象とし収集した。

(4)多言語教育に関する調査：マドリッド自治州の様に自治州言語を持たない州と、自治州言語を持つ州とでの英語教育及び多言語教育に対する取り組みの違いを調査した。

(5)ICT の教育利用に関する調査：英語を導入した美術の授業における ICT 活用の有無と美術教育における教育的効果、指導形態と教育プログラムの内容、既に構築されているデータベースの活用状況等の具体的な取り組みについて調査した。

(6)学習教材の開発：スペインの英語版美術教科書を参考に、子どもが図画工作科の活動を楽しみながら多様な表現力を習得し、総合的な学びに発展する教材を開発した。実践研

究授業を行い、改善点等の省察を行った。

４．研究成果

2012 年、2013 年にスペインにて現地調査を行い、教育省や教育委員会、教科書会社、小学校、大学の教員養成学部の訪問調査と、英語版美術教科書及び教師用指導書の収集を行った。各教員の専門性に基づき、調査の役割分担は以下の通りである。

・研究統括（藤井　康子）
・現地調査、教育制度の動向分析（藤井穂高）
・現地調査、美術教育の動向調査、美術教科書の分析（藤井康子、冨田礼志、金子亨）

調査では、現地協力者の María Acaso López-Bosh（マドリッド・コンプルテンセ大学芸術学部准教授）、Luke Brennan（マドリッド市英語教員）、María Jesus Agra Pardiñas（サンティアゴ・デ・コンポステラ大学教育学部教授）、Esther Collados Cardona（バルセロナ市中学校教員）、Josep Maria Padrol i Vellaverdú（バルセロナ市指導主事（美術））等の協力を得た。

(1)自治州教育省、教科書会社における聞き取り調査（2012 年度、2013 年度）

①マドリッド自治州教育・文化・スポーツ省を訪問し、教育行政による英語教育の推進状況に関する聞き取り調査を行った。

現在、マドリッド自治州の初等教育段階の就学率は 99%であり、移民が多く住む自治州の中では最も高い就学率である。多言語教育に早くから取り組んできたが、1970 年以降は英語を導入し、現在では 3 歳児から英語教育が導入されている。他の自治州と比較し、学校教育における英語の授業時間数は最も多い。初等教育段階では CLIL（クリルーContent and Language Integrated Learning：内容言語統合型学習）教育を導入し、実技教科ー理科、美術、音楽、体育を英語で指導して教科の力と英語力との双方を獲得させるようにしている。これら実技教科と英語の授業時数と合わせると、週に最低 12 時間の英語の授業が行われており、他のヨーロッパ諸国の中でも多い方である。マドリッド自治州では英語教育に多くの時間と資金を投入しており、初等教育段階から英語の語学力を測る特別試験の導入も進められている。

②ガリシア自治州教育省を訪問し、自治州の権限、教育予算に関する事項、英語教育の取組みに関する聞き取り調査を行った。ガリシア州には自治州言語（ガリシア語）があるため、独自の教育システムが採用されている。一般的な小学校ではバイリンガル教育（ガリシア語 50%：スペイン語 50%）が行われており、算数、理科、音楽、美術、市民教育は全てバイリンガルで行われる。マルチリンガル教育（スペイン語 33%：ガリシア語 33%：英語 33%）を行う学校は全体の 20%程度であり、年々増加している。

2000 年から英語教育が重視され始め、2010 年からはガリシア語、スペイン語、英語のマルチリンガル教育に力が入れられており、2013 年からは英語の他にフランス語、ドイツ語、ポルトガル語、中国語にも力を入れた教育を展開している。CLIL 教育を実践できる教員や一般教員の英語力向上のために、補助金制度や講習制度等が設けられている。

③カタルーニャ自治州教育省、バルセロナ市教育委員会を訪問し、英語教育の推進状況に関する聞き取り調査を行った。カタルーニャ自治州には自治州言語があり、カタラン語を中心とする独自の教育システムがある。今から 10～20 年前に英語教育が導入されているが、カタラン語の自治州における社会的影響力の強さから、英語教育の普及が難しいといえる。現在のところ CLIL 教育の取り組みと推進は、全て個々の教員の意志と努力とによって支えられているところが大きい。

バルセロナ市では近年、小・中学生の英語能力を伸ばすためのプログラムを考案し、各学校に採用するよう求めている。初等教育段階で英語教育を推進する上で最も重要なのは、教師の英語能力（特に会話力）を高めることである。そのため、教員の英語力向上のための補助金や留学制度、サポーター制度を充実させることに努めている。CLIL 教育を実践する教員がいる学校に対しては、州から教材開発費として特別報酬が与えられている。

④大手教科書会社のアナヤ出版社を訪問し、同社が編集・出版する初等教育段階の英語版美術教科書及び教師用指導書に関する聞き取り調査を行った。スペイン教育科学省により、2006 年から開始された英語教育を重視する政策の影響から、算数と国語（スペイン公用語）を除く全教科で英語とスペイン語のバイリンガル教育への移行が進められている。近年、マドリッド自治州の公立学校では、カリキュラムの三分の一を英語で学ぶバイリンガル学校に移行する数が増加傾向にある。この様な教育情勢を背景に、小学校では英語版美術教科書の需要は年々高まっている。アナヤ社は「美術を学びながら言語を学ぶ」教科書を作成する為、児童が理解しやすいように図版を効果的に活用し、簡潔で楽しみながら学べる内容を研究していること等が明らかになった。

⑤大手教科書会社サンティジャーナ社を訪問し、同社が編集・出版する初等教育段階の英語版美術教科書及び教師用指導書に関する聞き取り調査を行った。英語版美術教科書の作成・編集の際に最も難しい課題となるのが、英語の言語能力の平均レベルを設定することである。英語版美術教科書の多くはスペイン語版美術教科書の翻訳版として作成されているが、学習内容と学習レベルの設定については、英語版はスペイン語版のものより

も多少レベルを低く設定し、教師や子どもが学びやすいように工夫していることが明らかになった。今後は、英語版美術教科書のデジタルブック版や学習支援ソフト等の開発にも力を注いていきたいとのことであった。

(2)小学校及び大学の教育学部における聞き取り調査（2012 年度、2013 年度）

①マドリッド自治州、マドリッド・コンプルテンセ大学芸術学部の訪問調査を行った。美術科教育教員マリア・アカソ准教授の研究室を訪問し、スペインの美術教育の最新の動向、マドリッド市におけるバイリンガル教育の実施状況や英語による美術教育の在り方について、現在の日本の美術教育との違いや問題点等について研究協議会を開催した。

コンプルテンセ大学の教員養成課程は 4 年間で、小学校全科教員となる資格を得る。教育実習期間は 6 か月間である。バイリンガル教育については、指導体制など具体的な対策はまだないという状況である。この点は、日本の大学の現状と同様である。近年、特に学生達の就職で英語力が求められており、教員になるためにも経験以上に重要であることから、大学教員にも英語による講義の実施が求められていることが明らかになった。

②マドリッド自治州、ブランカ・デ・カスティージャ校（半官半民学校）の訪問調査を行った。市内中心部に位置し、幼・小・中・高一貫教育を行っている中規模校である。かつては私立学校であったが、現在は幼稚園から中学校までが半官半民のバイリンガル学校として、高等学校のみ私立学校として運営している。主な調査項目は学校設備等の学校組織、教育課程、カリキュラム、教科書の使用状況や内容について、図工・美術の週当たり授業時間数、授業における言語の取り扱い等についてであった。授業観察については、食物を題材とする第 2 学年の英語による理科の授業を見学した。常勤講師と非常勤講師による TT 形式の授業で、デジタル教材や音楽、ゲームを取り入れた活動的な内容であった。バイリンガル教育については、単語や文法の習得を主とする言語教育とは異なり、日常会話を含めた実践的な英語表現を楽しみながら身につけることを目的に実践されていた。

③マドリッド自治州、サンパトリシオ（モラレハ）学校（私立学校）の訪問調査を行った。市内にある五校のサンパトシリオ学校の中で最も新しい学校であり、幼小中高一貫教育が行われている中規模校である。経済的に非常に豊かな人々が暮らすマドリッド市のモラレハ地区に位置している。本校は非常に広い校庭と教室面積、最新の ICT 設備が完備された恵まれた教育環境のもとで国際的な教育を展開している。全教科で英語とスペイン語のバイリンガル教育による指導が行われている。2012 年より芸術教科（音楽・美術）を基盤とした芸術プロジェクトを推進しており、芸術教育を通して各教科を学ぶ指導に力が注がれている。3 歳～12 歳までの児童は実技教科である音楽・美術・体育・理科の学習内容を全て英語で学んでいる。授業観察では、小学 1 年生の美術の授業『先史時代のひとになって』を中心に見学した。

④マドリッド自治州、C.E.I.P. PRÍNCIPES DE ASTURIAS 学校（公立学校）の訪問調査を行った。市郊外にある新しいバイリンガル公立学校の一つであり、幼小一貫教育が行われる小規模校である。スペイン語と算数以外は全て英語とスペイン語とのバイリンガル教育が導入されており、英語での授業が非常に多く行われているのが特徴的である。

本校では小学 1 年生からバイリンガル教育が開始され、英語を使った授業が週 16 時間ありその内 6 時間がネイティヴ教員の授業である。年齢が小さいほど音声を自然に、正確に認識することができるため、教科内容を様々な活動を通して英語で学ぶのである。教材については、英語版教科書を使用することが多いが、美術ではスペイン語での私語が増えてしまうため使用していない教員も多い。授業観察は、小学 3 年生の図工の授業『Colors』を中心に見学した。

⑤ガリシア自治州、サンティアゴ・デ・コンポステラ大学の訪問調査を行った。教員養成課程美術科教育教員マリア・ヘスス教授の研究室を訪問し、スペインの美術教育の最新の動向、サンティアゴ市におけるバイリンガル教育の実施状況等について聞くとともに英語による美術教育の在り方について話し合う研究協議会を開催した。教員養成課程の期間と資格、教育実習期間についてはコンプルテンセ大学と同じであった。教員養成課程におけるバイリンガル教育に対する対策はまだ十分に行われておらず、美術教育においてもこれからということであった。本校では、芸術教科を総合的に考えることの重要性から、実技系教員の協力体制の下でヴィジュアル言語と音楽的な言語、ドラマを統合し、表現を一言語として捉える教育が重視されていた。

⑥ガリシア自治州、オ・クルセ学校（公立学校）の訪問調査を行った。市内から約 35 ㎞離れた住民 6、000 人の小さな村コルーニャにある公立学校であり、幼小中一貫教育が行われている小規模校である。大きな演劇状舞台や温水プール、ICT 設備が整備された恵まれた環境が整備されている。1997 年から ICT 教育に力が入れられており、生徒たち一人ひとりにノートパソコンの貸し出しを行い、ICT を取り入れた授業を行っている。教科書はあまり使用せず、パソコンやソフトの活用を導入した授業が多い。英語教育に特に力が入れられ、美術等の実技教科は全て英語で行

っている。授業見学は、小学５年生のガリシア文化理解を考慮した図工の内容で、地域の栗のお祭りに合わせた授業『栗の葉からイメージを広げて』を中心に行った。

⑦ガリシア自治州、マニュエル・ペレテイロ学校（私立学校）の訪問調査を行った。市内に位置するバイリンガル私立学校であり、幼小中一貫教育が行われる大規模校である。経済的に裕福な家庭の子どもが多く、最新の ICT 設備が整備されている。児童の将来の可能性を広げる為、使える英語を習得させるために幼稚園から英語教育を導入している。
　幼稚園と小学１･２年生は情報教育、美術、体育を中心に時間割の 50%を英語で学ぶ。3・4 年生からは英語の割合がより高くなり、5・6 年生からは時間割の 90%以上を英語で学ぶ教育が行われている。教科書はあまり使用せず、パソコンと副教材のソフトを活用して教員が独自に考案した授業が多く、授業について行けない子どもはワークシートで支援する。又、フランス語、中国語、ドイツ語についても小学校から取り組んでいる。授業見学は、小学４年生の図工の授業『Differences 4 lines』を中心に行った。

⑧カタルーニャ自治州、バルセロナ自治州大学（公立）の訪問調査を行った。1968 年に設立された自治州で唯一の州立大学（公立）で、学生数は約 40,000 名，教員数 3,514 名である。バルセロナ市におけるバイリンガル教育の実施状況等について聞くとともに、英語による美術教育の在り方について話し合う研究協議会を開催した。教員養成課程の期間と資格の在り方、教育実習期間については他大学と同じであったが、現職教員のための教員研修と教員志望の学生のための研修に力を入れていることが特徴的である。教員研修では、現場の美術教師の英語力を高めるため，現代美術を活用した研究等が熱心に行われている。本校ではバイリンガル教育に対する具体的な対策の一つとして、現代アートをテーマとしたプロジェクトを推進していた。

⑨カタルーニャ自治州、モッセン・チント・ヴェルダゲール学校（公立学校）の訪問調査を行った。幼小一貫教育を行う中規模校の公立学校であり、バルセロナ市の中でも最も移民が多く居住する地区に位置し、パキスタンやボリビア、中国、モロッコ等の多国籍の子どもが全体の 90%以上を占めている。2005 年頃からカタラン語・カスティーリャ語・英語のマルチリンガル教育を推進しており、特に英語は校内の第二共通言語として重視している。多国籍の子どもが大半を占める本校では言語が大きな問題となるため、生徒－教師間の共通語をカタラン語と英語に絞ることで、児童の心理的な安定を図ることが目的とされている。授業観察は、小学５年生の英語による美術の授業『オリジナルカードづくり』を中心に見学を行った。
⑩カタルーニャ自治州、ヴィロライ学校（半官半民学校）の訪問調査を行った。1958 年に創立された幼・小・中・高一貫教育を行う大規模校である。アントニオ・ガウディによって作られたグエル公園の側に位置しており、校舎内からは豊かな自然とバルセロナ市を一望できる。小学校では１年生から少しずつ英語を学び、3 年生以降は理科や各教科を英語で学ぶ CLIL 教育を導入している。子どもに教科内容をしっかりと教え理解させために、各学年の学習レベルに応じた教育内容を研究している。教科書はあまり使用せず、英語に親しむ心情を育むこと、英語のヒアリングとスピーキングを重視し「使える英語の習得」を目的とする ICT を活用した学習活動を多く取り入れていた。授業観察は、小学６年生の図工『オリジナルカレンダーづくり』を中心に見学を行った。
　この他、ガリシア自治州においてチェスター・カレッジ（私立学校）、カタルーニャ自治州においてブランケルナ大学（私立大学）、サルバドール･エスピリトゥ校（半官半民学校）の訪問調査を行った。

(3)学習教材の開発と実践研究授業の実施
　図画工作科と外国語活動との協働学習のための教材開発を行い、実践研究授業を通して学習内容と指導法について検討した。
①平成 26 年 10 月 23 日に、熊本市立一新小学校の５年２組において「自分のマークをつくろう。～キーホルダーづくり～」（全 2 時間）の教育実践を行った。本授業は、図画工作科のデザインの内容と外国語活動の内容 Lesson 5「What do you like?」『Hi, friends! 1』を統合し考案したものである。子どもにとって身近な様々なマークや家紋を取り上げて ICT を使って示し、幾何学的な形と好きな色とを使って自分のマークのデザインを考えて描く活動である。チャンツに合わせながら、表現活動を進める上で必要な英語表現を学ばせ、授業の中で何度も使えるようにした。授業の最後には鑑賞活動を位置づけ、鑑賞活動を通して自分の思いを言葉で表現し、自分とは異なる他者の意見を聞くことによって相互理解が深められるようにした。

②平成27年1月26日から2月9日にかけて、大分大学教育福祉科学部附属小学校の 3 年 1 組～3 組の児童に対し「○△□のはんをつかって絵をかこう！（版画）」（全２時間）の教育実践を各クラス１回（計３回）行った。本授業は、図画工作科の内容「はんをつかって」『よさを見つけて 3･4 上（日本文教出版）』の題材と、外国語活動の内容 Lesson 5「What do you like?」『Hi, friends! 1』を参考とし考案したものである。授業の導入で、作家宇治山哲平の作品を形と色に着目して鑑賞させた後、○△□の版を使って表す実践を行い、幾何学的な形の版を使って自由に表現さ

せた。形と色に関する英語表現を用いた発表活動（ショーアンドテル）では、版による表現の楽しさを経験したからか、積極的に自分の作品について説明しクラスの友人と交流し合う児童の姿がみられた。

③平成27年2月20日に、熊本市立一新小学校の5年2組において「クイズをつくろう～『アルチンボルド』の作品鑑賞と造形遊び」（全2時間）の教育実践を行った。本授業は、図画工作科の造形遊びの内容と外国語活動の内容Lesson 7「What 's this?」『Hi, friends! 1』を統合し考案した。授業の導入でアルチンボルドの作品『司書（1556年頃）』『四季－春（1573年）』他3点の複製画とモニターの画面を見せて鑑賞活動を行った後、教室内で児童の手持ちの物（鉛筆、マーカー、ハンカチ等）を材料とし班（3～5名）で協力して造形遊びを行うようにした。発表活動では各班が作品を紹介し合い、何を表現したのかを当てるクイズゲームを行った。児童は鑑賞で得たことを表現活動や発表活動に生かす等、意欲的に取り組む姿がみられた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　８件）

①藤井　康子、スペインの初等美術教科書の研究－外国語教育との連携について－、査読無、IRCN　国際交流情報、第7号、2012、p.3。
②藤井　康子、スペインの調査研究の報告、査読無、IRCN　国際交流情報、第8号、2013、pp.13-14。
③金子　亨、佐藤　みちる、スペインの初等美術教育：現地調査をもとにして、査読無、東京学芸大学紀要、芸術・スポーツ科学系、第64号、2012、pp.1-9。
http://hdl.handle.net/2309/131959
④藤井　康子、スペインの美術教育における英語教育を取り入れた学習内容と指導法の研究に関する調査：2012～2013年度概報、査読無、大分大学教育福祉科学部附属教育実践総合センター紀要、第31巻、2014、pp.219-232。
http://hdl.handle.net/10559/15246
⑤金子　亨、佐藤　みちる、スペインの初等美術教育の一考察－現地調査をもとにして－、査読無、東京学芸大学紀要、芸術・スポーツ科学系、第65号、2013、pp.87-95。
http://hdl.handle.net/2309/134252
⑥藤井　康子、スペインの美術教育における英語教育を取り入れた学習内容と指導法の研究に関する調査：2012～2013年度概報、査読有、九州地区国立大学教育系・文系研究論文集、第2巻、第1号、2014、No.9、pp.1-13。
https://nuk.repo.nii.ac.jp/
⑦藤井　康子、スペインの初等教育におけるCLIL教育の研究－マドリッド自治州、ガリシア自治州、カタルーニャ自治州の現状と教材開発の視点－、査読有、日本美術教育研究論集、第48号、2015、pp.63-70。
⑧藤井　康子、スペインの美術教育におけるCLIL実践の研究Ⅰ、査読有、美術教育学研究、査読有、第47号、2015、pp.311-318。

〔学会発表〕（計　６件）

①藤井　康子、スペインの初等美術教育の研究、第51回大学美術教育学会大分大会、大分大学教育福祉科学部（大分県大分市）、2012年10月21日。
②藤井　康子、スペインの初等教育におけるバイリンガル教育の調査報告、第52回大学美術教育学会京都大会、京都教育大学（京都府京都市）、2013年10月13日。
③藤井　康子、英語による図画工作科の授業内容の一考察、第36回美術科教育学会奈良大会、奈良教育大学（奈良県奈良市）、2014年3月28日。
④藤井　康子、スペインにおけるCLILを導入した美術教育の研究－英語版美術教科書と指導書の内容を中心に－、第53回大学美術教育学会福井大会、福井大学（福井県福井市）、2014年10月5日。
⑤藤井　康子、スペインの初等美術教育におけるCLIL教育の研究－マドリッド自治州、ガリシア自治州、カタルーニャ自治州の現状－、第48回日本美術教育研究発表会、東京家政大学（東京都板橋区）、2014年10月19日。
⑥藤井　康子、美術教育におけるCLIL的アプローチによる指導法の研究－熊本市立一新小学校での実践から－、第37回美術科教育学会上越大会、上越教育大学（新潟県上越市）、2015年3月28日。

６．研究組織

(1)研究代表者
藤井　康子　（FUJII, Yasuko）
大分大学・教育福祉科学部・講師
研究者番号：10608376
(2)研究分担者
藤井　穂高　（FUJII, Hodaka）
筑波大学・人間総合科学研究科・教授
研究者番号：50238531
金子　亨　（KANEKO, Toru）
東京学芸大学・教育学部・特任教授
研究者番号：90233882
冨田　礼志　（TOMITA, Reishi）
大分大学・教育福祉科学部・教授
研究者番号：60145349
(3)研究協力者
田邉　良祐（TANABE, Ryosuke）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科
東　奈美子（HIGASHI, Namiko）
熊本市立一新小学校教諭
大島　亜矢子（Ōshima, Ayako）
大分大学教育福祉科学部附属小学校教諭
友廣　佳奈子（Tomohiro, Kanako）
大分大学教育福祉科学部附属小学校非常勤講師